

Next

発行所 一般社団法人茨城県建設業協会
建設未来協議会

〒310-0062 茨城県水戸市大町3-1-22
電話 029(221)5126(代)

ホームページ <http://miraikyo.com/>

Facebook: <https://www.facebook.com/kensetsumiraikyo/>

発行人 鈴木 達二

令和3年度 基本方針

建設未来協議会 会長 鈴木 達二



社会全体に大きな影響を与えている新型コロナウイルスの感染拡大がまだ終息を見ない中、当会の活動もまた厳しい制約を受けています。しかしながら「建設業に従事する次代を担う経営者が魅力ある建設業の創造と地域の発展に寄与する」という当会の目的を達するためには、ここで足を止めることがあってはなりません。当会は今年度もコロナを言い訳にすることなく、会員同士で知恵を出し合い、社会情勢や環境に適応した活動を継続的に行っていきます。

建設業の健全な発展に向けた業界全体の課題である「担い手確保」、その大前提となる「働き方改革」、その手段としての「生産性向上」、課題解決を側面からバックアップする「地域貢献活動」や「広報・イメージアップ」。これらに対して当会は、単なる「建設業協会の下部組織」という立場ではなく、より主体的に課題解決に向けた活動を続けることで、全国の地域建設業界団体青年部をリードする存在を目指します。そのために、協会本部および各委員会はもとより、女性部会である「建女ひばり会」とも協力し、関係機関・団体と密接な連携を図りつつ積極的な活動を展開していきます。主な事業分野と活動方針は以下の通りとします。

(1) 地域貢献・社会連携分野

- ①建設業および建設業が担う地域インフラ整備の重要性について、地域の皆様の理解をより深めていただくために積極的なボランティア活動、イベント開催等を行う。
- ②持続可能な社会の実現に向けた建設業および当会の役割についての研究および啓蒙活動を行う。

(2) 生産性向上分野

- ①加速するDX（デジタル・トランスフォー

メーション）の動きの中、ICT施工はもとより、事業全体へのデジタル技術活用による生産性向上と経営力強化に向けた研究および啓蒙活動を行う。

- ②働き方改革・生産性向上に関する技術的・制度的な課題について、会員相互に、また発注機関と積極的に情報共有し、課題解決に取り組む。

(3) 次世代育成分野

- ①現場見学会・現場実習・出前授業等を通じて次世代の担い手育成を図るとともに、学生・生徒および学校と積極的にコミュニケーションを行い、建設業界に対するニーズの把握に努める。
- ②体験学習やイベントでの情報発信、教材等の制作・配布を通じ、低年齢層の建設業および地域インフラへの興味関心、将来の就業意識の醸成を図る。

(4) 広報・ソーシャルメディア分野

- ①「建設」（建設業および地域インフラ）に関する各種トピックスについて、ニーズに合わせた情報発信を行うことで、地域の安全・安心を守る地域建設業の重要性を広く一般にPRする。
- ②一般参加型のイメージアップ事業や、SNS等ソーシャルメディアの活用を通じ、一般社会との双方向のコミュニケーションを行うことで、「建設」が身近な存在となるよう務める。

令和3年度 第29回定時総会開催

総務委員会 副委員長 須田 要介

令和3年度第29回定時総会は、5月14日(金)に水戸市のホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸において、多数のご来賓の方々の出席のもと新型コロナウイルス感染症防止対策を行いながら開催された。

冒頭、大曾根会長は新型コロナウイルスの収束が未だ見通せない状況に触れ、建設フェスタの中止を悔やみつつ、会員の協力により様々な事業が運営できていることに感謝した。また、建設産業の最大の課題として人手不足を挙げ、「我々は様々な活動を通じて持続可能な建設産業と地域社会の構築に貢献していかなければならない。我々にとって最も大切なことは活動を継続すること。継続することが課題解決につながり、建設産業の持続可能性に繋がる。」と力強い挨拶があった。

続いて、(一社)茨城県建設業協会石津会長よりコロナ禍の制約を受けつつも対策を講じながら現場見学・実習、清掃ボランティア活動など可能な限り実施していることに感謝しつつ、「担い手確保や働き方改革など従来の課題に加え新型コロナ対策や建設現場におけるDXなど新しい課題に対応しながら、地域の安心安全を確保する地域の守り手としての役割を果たしていかなければなりません。魅力ある建設業の再生と地域建設業の活性化を図る為、建設未来協議会と一丸となって活動して参りたい。」と更なる協調を求めた激励のお言葉を頂戴した。

その後、規約により大曾根会長が議長に指名され、次の議案審議が行われた。

第1号議案 令和2年度 事業報告の件



茨城県建設業協会 石津会長



茨城県土木部 仙波部長



常陸河川国道事務所 原田所長

第2号議案 令和2年度 収支決算の件

第3号議案 委員会構成変更の件

第4号議案 令和3年度 事業計画(案)の件

第5号議案 令和3年度 収支決算(案)の件

第6号議案 役員改選の件

各議案は、いずれも原案どおり可決され、この結果、会長には鈴縫工業(株)の鈴木達二氏が新任、総務担当副会長に櫻井建設工業(株)の櫻井俊一氏、地域貢献活動担当副会長に(株)内藤工務店の内藤裕一郎氏、社会コミュニケーション担当副会長に栗山工業(株)の栗山秀樹氏がそれぞれ選任された。また、委員会構成変更で人材・システム委員会と広報委員会が「社会コミュニケーション委員会」として統合され、建設未来協議会の「建設業と人」をモチーフとした新しいロゴマークが発表された。

鈴木新会長は就任あいさつで、委員会再編で新設した社会コミュニケーション委員会をはじめ3委員会6地区会の体制で活動していくと報告した上で、「新型コロナウイルスの感染拡大が未だ収束を見ない状態で当会の活動も引続き厳しい制約を受けることが予想されるが、ここで足を止めることがあってはならない。会員同士で知恵を出し合い、社会情勢や環境に適応した活動を継続的に行って参りたい。そして全国の地域建設業団体青年部をリードする存在になるよう力を尽くしていきたい。」と新任の抱負を述べた。

議決審議後、ご来賓の仙波義正茨城県県土木部長が、「コロナ禍でいかにして建設業の魅力を発信するか、皆様と知恵を出しながら進めていき

たい。県土木部としては担い手確保に向けて、施工時期の平準化や休日確保などに積極的に取り組んで参りたい。」など述べ、原田昌直常陸河川国道事務所長が「担い手の確保や魅力度向上などは、我々行政にとっても課題であり、建設業の魅力を向上させる点になどにおいて、皆様と私どもはパートナーとしてともに課題に取り組む必要があると考えている。今後も意見交換で情報を共有化し前を向いていきたい。」などとお言葉をいただいた。

その後、新入会員の紹介、卒業生の挨拶を行った。通常、総会後に行われる懇親会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とし、本会の幕を閉じた。

笠松運動公園 清掃等ボランティア活動

副会長（前地域貢献活動委員会 委員長） 内藤 裕一郎



当委員会では、建設業の魅力発信や地域貢献を目的とした建設フェスタや幼稚園での砂場クリーン作戦の企画・運営を担っておりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により建設フェスタ2020をはじめ各事業が軒並み中止となり、従来の活動の実施が難しい状況となりました。

そこで、令和2年11月26日に地域貢献活動の一環として、ここ数年、建設フェスタの会場として使用させていただいている笠松運動公園にて清掃等ボランティア活動を実施しました。当日は、

当委員会を中心に33名の会員が参加し、搭乗式草刈り機・肩掛け式草刈り機を使用し草刈りを行ったほか、バックホウやコンバインドローラーを使用した駐車場の荒地整備などを行いました。

この活動により、同公園を利用している県民の皆様への貢献と、建設フェスタが再開された時の整備負担の軽減につながる有意義な活動が出来たのではないかと思います。

最後に、このような困難な状況の中、ご協力していただいた会員各位をはじめ笠松運動公園関係者や協力企業の皆様に感謝を申し上げます。

円滑な業務へ行政機関と意見交換会

関東地方整備局 常陸河川国道事務所

総務委員会 副委員長 河野 真

令和2年12月11日(金)、常陸河川国道事務所会議室において、意見交換会を開催し、常陸河川国道事務所から原田昌直事務所長、久慈川緊急治水対策河川事務所から石川武彦事務所長をはじめとする多くの方々にご出席下さいました。

はじめに、原田所長より、「災害が多発する中、インフラのメンテナンスなど建設業の方々と協力していかなくてはならない課題が多くあります。多様化する仕組みや制度に双方、切磋琢磨していき、未来ある建設業をアピールできればと考えています。本日は忌憚のない意見交換が出来れば。」とご挨拶を頂きました。続いて石川所長より、「当事務所は令和元年の台風19号後の令和2年4月に常陸太田市に発足致しました。今後5カ年計画で河道掘削、堤防整備等を実施していきます。このような意見交換の場を増やしていき、未来協議会と意見を交えて未来思考でおもしろいことをやっていきたいと思っております。」とご挨拶を頂きました。

続いて大曾根会長は「洪水や台風などの災害が多発し、規模が大きくなってきているこの時代に、我々建設会社としても両事務所様と共にインフラ等の整備に取り組んでいきたいと思っておりますので、



本日はさまざまな課題を含め忌憚のない意見を交わしていきたいと思っております。」と述べました。

次に常陸河川国道事務所から建設キャリアアップシステムについて情報提供を行い、建設未来協議会から活動状況についての情報提供を行いました。その後、建設未来協議会からの質疑・要望事項(①入札参加申請時における配置予定技術者、②変更契約に伴う諸手続き、③積算歩掛)について意見交換が行われ、最後に週休2日制、ICTについて討議しました。発注者様からも忌憚のない意見を頂き、今後につながる有意義な意見交換会となりました。

関東地方整備局 常総国道事務所・北首都国道事務所

県南地区幹事 鈴木 亮



令和2年11月27日(金)、茨城県建設業協会(水戸市)において、常総国道事務所・北首都国道事務所との意見交換会を開催しました。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により規模等を縮小しての開催となりましたが、常総国道事務所 丸山昌宏事務所長、北首都国道事務所 佐藤眞平事務所長をはじめとする事務所関係者の方々にご出席いただき、建設未来協議会と現場管理の実務や入札・契約制度の取り組みなどについて意

見を交わしました。

議事では、関東地方整備局から【首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の4車線化】【東関東自動車道水戸線(東関道)及び国道6号牛久土浦バイパス整備】など主要事業の概要や、フレームワークモデル工事(総合評価方式)の試行、最近の話題である建設キャリアアップシステムの取り組みについて説明がありました。

建設未来協議会からは、広報誌【NEXT】をはじめ、建設産業の魅力向上を目指しているCCI活動及びいばらき「建設フォトコンテスト」など各委員会での活動実績を紹介しました。

続く意見交換会では、多様な入札制度、週休2日制適用工事やICT施工について現場から上がる生の声や地域の実情など、踏み込んだ内容の意見交換をさせて頂きました。建設未来協議会及び発注者からも忌憚のない意見が出て、大変有意義な意見交換会となりました。

関東地方整備局 下館河川事務所

社会コミュニケーション委員長 (前県西地区幹事)

小倉 健太郎

令和2年8月26日(水)、下館河川事務所において、現場見学会及び意見交換会を開催しました。コロナ感染防止対策の為、例年よりも縮小しての開催となりましたが、下館河川事務所からは工藤美紀男事務所長をはじめとする事務所関係者の方々にご出席いただきました。

意見交換会に先立ち、鬼怒川緊急対策プロジェクトの一環である堤防整備工事(施工:株大林組)の現場を見学させて頂き、治水対策の先進的な事例をご説明頂きました。

続く意見交換会では、大曾根会長が冒頭のあいさつで近年発生している気象災害に触れ「人的被害の他にも農林水産も被害を受けており、食料自給率にも大きな影響を与え、河川の氾濫域だけの問題ではなく、国民全体に影響を与える問題ではないか。流域治水という考え方もあり、今後も防災や減災という部分で協力していきたいと思っており、また期待されていると感じております。」と述べられ。工藤事務所長からは「下館河川事務所では鬼怒川緊急対策プロジェクトという大きなプロジェクトを抱えており、今年度がその最終年度。地元業者のご協力もあって、今年度末のプロ



ジェクト完成を目指して職員一丸となって頑張っている。」と述べ、意見交換が有意義なものになることを祈念されました。

議事では、事務所側が鬼怒川緊急対策プロジェクトの概要、事故の注意喚起、新型コロナウイルス感染防止対策、熱中症アラートなどについて説明し、未来協議会側では活動報告のほか、広報誌「NEXT」及びいばらき「建設フォトコンテスト」を紹介しました。

続く意見交換では、総合評価の加点や改正建設業法、入札時の提出書類、災害時の状況把握など、さまざまな疑問等について話し合い、大変有意義な意見交換会となりました。

茨城県土木部 常陸太田工事事務所総務委員会 **平山 悠**

高萩・太田地区は高萩土木事務所、常陸太田工事事務所と隔年で意見交換会を行っており、令和2年度は常陸太田工事事務所との意見交換会を開催しました。コロナ禍での開催ということもあり、感染症対策として少人数での開催となりました。

意見交換の内容としてはやはり新型コロナウイルス対策関係のものが多く、3密を回避する方法



として、現場の立会や竣工検査をオンラインで行えないか等の意見が出されました。これに関しては、工事事務所側からぜひ前向きに検討したいとの回答をいただきました。

また、昨年度から当工事事務所発注の一部工事で導入されつつある情報共有システムについても多くの質問や意見が出されました。その他にはICT施工などについても意見交換を行いました。

これらの議案について受発注者ともに課題が多いところではありますが、スムーズに実現できるよう努力していきたいと思っております。

この意見交換会を通じて、コロナ禍でより変化していく建設業に速やかに対応し、次世代を牽引する存在としてしっかりとその役割を担っていかねばならないと感じました。

次代を担う若者に建設の魅力伝える 建設現場見学会・建設業インターンシップを開催

社会コミュニケーション委員長（前人材・システム委員長）田口 富之

次世代を担う高校生・専門学校生を対象に建設事業の正しい理解と魅力を感じていただけるように、毎年、建設現場見学会・建設業インターンシップを開催しております。令和2年度の実施においては、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ参加する方々の感染リスクを抑えるための新たなガイドラインの策定と、建設業インターンシップに多くの企業に参加していただけるように茨城県建設業協会の「いばらき建設業就職応援サイト」に登録している企業も新たに対象に加えるようにいたしました。

建設現場見学会は6つの高校から学生286名と1つの専門学校から学生78名、合計で364名に参加いただき、各校が県内の建設現場を見学しました。建設業インターンシップは3つの高校から学生50名と2つの専門学校から学生128名、合計で178名に参加いただき、茨城県建設業協会の会員企業61社が受け入れて、各社で3日間のインターンシップを実施いたしました。建設業インターンシップでは受け入れ可能な企業は県内全域では増えたものの、地域によっては受け入れ可能な企業数がまだまだ少ないために、想定よりも多くの学生が1社に集中してしまい受け入れ企業に大きな負担をかけてしまったところがあったと思われます。令和3年度はより多くの会員企業に受け入れを表明してもらい1社に大きな負担がか



からないようにしていきたいです。

茨城県労働局の発表によると2021年3月に高校卒業予定の生徒について、建設業の求人数は1368人に対して内定者は220人とのことです。昨年度に比べれば建設業における内定者は25人増加したものの、求人数に対しての内定者の割合は16.1%と、まだまだ若年者の入職が少ないことは間違いありません。若年入職者の更なる増加にむけて、建設事業の正しい理解と魅力を感じていただけるように普通科学生対象のインターンシップ・出前授業の実施、働き方改革への取り組みを各企業で加速させることが必要であると考えます。

結びにこの事業にご協力賜りました茨城県土木部、国土交通省、インターンシップ・見学生を快く受け入れてご指導いただきました会員企業の皆様に心から御礼申し上げ、ご報告にかえさせていただきます。



第3回いばらき「建設フォトコンテスト」を開催

副会長（前広報委員会 委員長） 栗山 秀樹

広報委員会では、建設業や当協議会活動の情報発信をSNS、プレスリリースを通して行っております。その主たる事業として“いばらき「建設フォトコンテスト」”を開催致しました。

全国各地から応募を頂き、コロナ禍の中でしたが総数にして650点を超える作品をお子さんからお年寄りまで多世代に渡って沢山の作品を送って頂くこととなりました。

茨城の風景の中に溶け込む建造物、建設現場、またそこで働く技術者のホッとする一面をフレームに収めたものや地域を支える基盤インフラとしての姿などたくさん作品を伝えて頂きました。

今年度も昨年に引き続き第3回“いばらき「建設フォトコンテスト」”を開催します。

一眼レフからスマホ写真まで、Webまたはプリント郵送でお送り下さい。

たくさんのご応募をお待ちしております。

【応募締切】2021年9月30日(木)

【賞品・商品】最優秀賞／5万円の商品券・賞状
ほか



A部門
最優秀賞
「建設のある茨城の風景」
西中 拓史氏



ホームページ



Facebook



Instagram

ロゴマーク完成！コンセプトは「建設業と人」

副会長（前広報委員会 委員長） 栗山 秀樹

当委員会では、建設未来協議会のロゴマークの作成を担当しました。アウトソーシングサービスを使用して、94件の応募の中から当会正副会長会と役員会での協議を重ね、デザインを決定しました。（右図参照）

デザインコンセプトとしては、「建設業と人」をモチーフに両サイドに人が手を広げて協力をしている構図です。中の青い三本の柱はそこで造られる構築物をイメージして【信頼感】【清潔感】【躍動感】【成長】を表現しています。

基本カラーは青として、青年部団体としての若々しさや未来をイメージする色合いとしました。今後は、広報媒体への掲載や当会の事業を行う際にロゴマークを入れたのぼりやアイテムを用

いて、発信力強化に繋げて行きたいと考えております。



一般社団法人 茨城県建設業協会
建設未来協議会

2年間の幹事県活動が終了 神奈川県にバトンタッチ

関東建設
青年会議

令和2年10月29日、東京建設会館で2020年度（令和2年度）通常総会を開催しました。当会議は、関東地方各県建設業協会に所属する若手経営者により組織されています。

総会では、当県の増子秀典会長が、2年間の協力に礼を述べた上で「週休2日制の導入や生産性向上などの働き方改革、ICTをはじめとする生産性向上はもとより、建設業が苦手としている情報発信についても我々のような若手が引っ張っていかなければならない。そのためにも関東7県における建設業の若手経営者が集まり、課題などを提案・共有できるこの会の意義は大きい。今後も有意義な活動を。」と、あいさつ。

議事では、会員相互の情報発信・共有を掲げた事業計画(案)や昨年度の事業報告について報告・承認され、その後の役員改選では、神奈川県の白井崇雄氏が新会長に選出されました。

増子会長をはじめとする出向役員の皆様、2年間大変お疲れさまでした。令和3・4年度も積極的に活動に取り組んで参ります。



イメージアップやコロナ対策など共有 栃木県 北関東三県建設業協会青年経営者等合同会議

令和3年2月18日、栃木県宇都宮市（栃木県建設産業会館）において、「北関東三県建設業協会青年経営者等合同会議」を開催し、茨城県、群馬県、栃木県の北関東三県建設業協会の若手経営者らが参加しました。

会議では、地域貢献活動や人材育成事業、発注者との意見交換会など、それぞれの事業について報告したほか、各県における新型コロナウイルス対策やイメージアップ戦略などについて意見を交換しました。

建設業のイメージアップ活動では、群馬県が「環境すみずみパトロール」として、女性目線での現場パトロールを実施し、安全・快適でやりが



いを持って働ける職業であることをアピールしているほか、栃木県は建設業とダンス、音楽を融合させたミュージックビデオ風のPR動画の制作などが紹介されました。本県も建設フェスタや砂場クリーン作戦のほか、(仮)いばらき建設図鑑の制作などを紹介しました。

本会議は、各県の建設業協会に所属する若手経営者らが建設産業のあるべき姿と方向性を議論・検討するとともに、各県の活動内容を把握する目

的で、平成24年度に栃木県を主幹としてスタートし、今回から三巡目となります。継続的な開催により、各県の関係はより一層深まっていることを感じます。

今後も親交を深めると共に、お互いが抱える問題・課題について解決の糸口が見えるような有意義な会議を継続して開催していければ幸いと考えております。

初のオンライン開催 新しい働き方模索

全国建設青年会議全国大会 北陸ブロック主幹



25回目となる全国建設青年会議全国大会が、令和2年12月4日に、北陸ブロック主幹のもと「働き方改革の中で勝ち取る建設業の明るい未来～新しい働き方の実現を目指して～」をテーマにオンラインで開催されました。

新型コロナウイルスの影響により、オンライン開催となった今大会では、開章夫大会会長（北陸ブロック）のあいさつ、赤羽一嘉国土交通大臣の来賓あいさつのほか、特別講演3講演（山田邦博国土交通省技監、大石久和（一社）全日本建設技術協会会長、白井芳樹元富山県土木部長）、基調講演2講演（家入龍太(株)イエイリ・ラボ代表取締役、小室淑恵(株)ワーク・ライフバランス代表

取締役社長）、「働き方改革の中で勝ち取る建設業の明るい未来～新しい働き方の実現を目指して～」をテーマにした各ブロック会長による座談会などが行われました。

各ブロック会長による座談会には、本会の増子秀典顧問も関東建設青年会議の会長として登壇し、週休2日制の取り組みや生産性向上などについて話し合いました。

新型コロナウイルスの影響により、顔を合わせたの大会とはなりませんでした。オンライン開催という新たな形で建設業の未来を語り、全国の仲間と価値観を共有することで、これからの繋がる大会となったと感じております。

県内小中高校や全国の協会へアンケートを実施！

建設業における教育支援活動に関する調査・研究作業部会 部会長 内藤 裕一郎

教育支援活動や情報発信について、業界と教育現場双方の実態とニーズを把握し、教育現場のニーズに沿った、より効果的かつ効率的なこうした活動のあり方を研究するため、令和2年10月1日に「建設業における教育支援活動に関する調査・研究作業部会」を発足しました。

会員企業や県内の小中学校・高校・専門学校、全国の建設業協会へアンケート調査を行い、効果的な教育支援活動に向けた課題や、施策の方向性を検証。教育支援活動におけるマッチング機能の強化や支援ツールの充実、継続に向けたPDCAサイクルの構築の必要性が示されました。

今後は支援ツールの充実に向けて、未就学児～小中学生とその保護者を対象としたビジュアルブックの作成に向けて活動していきます。

作業部会のメンバーは以下の通りです。

【部会長】

◆内藤裕一郎（㈱内藤工務店）

【担当副会長】

◆鈴木達二（鈴縫工業㈱） ◆高田稔美（㈱高田



工務店)

【部会員】

◆田口富之（㈱田口工務店） ◆栗山秀樹（栗山工業㈱） ◆吉田長邦（㈱吉田組） ◆河野真（㈱河野工務店） ◆秋山正人（㈱秋山工務店） ◆根本昌義（㈱根本工務店） ◆菊池健郎（㈱菊池土建） ◆串田一仁（㈱クシタ建設） ◆小倉健太郎（㈱小倉工務店） ◆吉原政文（吉原建設工業㈱） ◆柳瀬香織（海老根建設㈱） ◆浅野麻由美（浅野物産㈱） ◆宮本裕司（芳野工業㈱）

児童養護施設へ寄付を行いました

本年も社会貢献活動の一環として、当協議会のチャリティーゴルフコンペの収益金を令和3年1月22日に那珂市額田北郷の児童養護施設チルドレンズ・ホーム（根本美千夫理事長）へ寄付いたしました。寄付を受け取ったチルドレンズ・ホームの関実施設長は「大変ありがたい限り。子供たちの意思を尊重しながら、有効に使わせていただきたい。」とお礼を述べていました。

また令和2年12月7日には、鹿行地区（郡司誠幹事）が、社会福祉法人照桑福祉会の児童養護施設るんびに（行方市芹沢1651-1、戸田見成理事長）を訪れ、寄付金10万円とタオルと寄贈しました。同地区では例年、鹿行地区の教育施設で体験学習を実施していますが、新型コロナウ



イルス感染防止の観点から令和2年度は実施できなかったため、この経費から寄付金を計上した上で、会員企業で集めたタオルなどをお贈りしました。

委員会紹介

総務委員会

担当副会長 櫻井俊一（櫻井建設工業㈱）

委員長 長山朋之（長山工業㈱）

副委員長 田山浩之（第一熱学建設㈱）・須田要介（日立土木㈱）・河野真（㈱河野工務店）・石津弘敏（常総開発工業㈱）・島崎崇（北条工業㈱）・仁平大介（㈱仁平工務店）

委員 高橋順子（高橋建設工業㈱）・雨貝綱太（㈱水戸グリーンサービス）・菊池康平（菊丸建設㈱）・平山悠（㈱水府工務店）・大曾根篤（大栄建設㈱）・金澤陽治（㈱金沢建設）・益子正太（㈱益子）・吉原政文（吉原建設工業㈱）・飯塚揚（㈱飯塚工務店）・石津松吾（石津産業㈱）・鎗木大輔（鎗木建設㈱）・下舘雄樹（㈱波崎建設）・飯塚亮平（飯塚建設㈱）・田林剛（勝工業㈱）・田所大和（㈱ワイエスケイ）・白田諭（白田工建㈱）・柴信一（旭建設工業㈱）・中山英士（のだや建設㈱）・松本浩治（㈱新栄開発）

社会コミュニケーション委員会

担当副会長 栗山秀樹（栗山工業㈱）

委員長 田口富之（㈱田口工務店）・小倉健太郎（㈱小倉工務店）

副委員長 荒川繁美（水戸土工建設工業㈱）・宮本裕司（芳野工業㈱）・井坂陽介（㈱井坂組）・生田日憲明（㈱進栄）・福智勇人（福智建設工業㈱）・赤塚剛（㈱赤塚土木興業）・鈴木亮（北都建設工業㈱）中山英俊（㈱染谷工務店）

委員 池田大輔（コスモ総合建設㈱）・雲井憲正（㈱雲井工務店）・黒澤勝（アルプス建設㈱）・小池良一（㈱小池工務店）・横田修一（㈱横田建設）・中井将史（㈱中井工務店）・中野陽平（㈱根本組）・石井貴之（㈱石井建設）・河野真（㈱河野工務店）・大森裕一郎（大森建設㈱）・齋藤靖弘（㈱サイトウ緑地開発）・藤井雅成（㈱丸二工務店）・安藤祐章（㈱鹿島企業）・飯島新史（飯島建設㈱）・田崎翼（㈱田崎技術）・谷田川智久（㈱ホソヤ工務店）・佐々木祐也（常磐建設㈱）・寺田健一郎（㈱羽原工務店）・細谷貴弘（細谷建設工業㈱）・浅野麻由美（浅野物産㈱）・磯邊集（㈱アレスコ）・齋藤誠（㈱齊藤建設）・成島隆平（成島建設㈱）・新井雅貴（㈱アロウズ）・石嶋尚（㈱石嶋建設）・鮎川和男（飯田建設興業㈱）・堀江平（堀江産業㈱）・新井紀雄（新井土木㈱）・串田一仁（㈱クシタ建設）・野口貴生（野口機設工業㈱）・山本明宏（㈱下妻建設）・新井邦幸（㈱新井建設工業）・印出正人（㈱丸健工業）・小川敦史（小川建設工業㈱）・加藤裕司（加藤建設工業㈱）・染谷真一（㈱染谷建設工業）・高橋拓也（㈱高橋芝園土木）・中村亮太（中和建設㈱）

地域貢献活動委員会

担当副会長 内藤裕一郎（㈱内藤工務店）

委員長 根本昌義（㈱根本工務店）

副委員長 秋山正人（㈱秋山工務店）・若松亜紀子（菅原建設㈱）・瀨谷政行（瀨谷建設㈱）・川崎和洋（㈱川崎建設）・高野弘康（㈱高野工務店）・菅谷一成（㈱菅谷工務店）・浅野麻由美（浅野物産㈱）・串田一仁（㈱クシタ建設）

委員 大貫可奈以（㈱大貫工務店）・桐原裕一（㈱桐原工務店）・仙波秀教（仙波建設㈱）・高野和子（㈱鯉淵工業）・長谷川優子（平和建設㈱）・益子朋（益三建設㈱）・岡田寿浩（㈱岡田建設）・鈴木欽一（㈱鈴木組）・浅川宗典（㈱浅川建設）・井上将人（㈱井上工務店）・大内榮樹（㈱大栄建設）・澤島弘樹（東康建設工業㈱）・清水亮（㈱田本工務店）・高倉美佳（高倉建設工業㈱）・根本貴史（ネモト建設工業㈱）・橋本将一（橋本建設㈱）・八木満津雄（㈱八木組）・石井愛理（㈱石井工務店）・伊東優考（㈱伊東建設）・齊藤卓也（㈱齊藤建設工業）・新堀進也（㈱新堀産業）・羽生貴之（㈱羽生工務店）・藤枝賢一（藤枝建設㈱）・堀江光（㈱光建）・犬塚正一（㈱和城産業）・大川雄生（㈱サンワ興業）・郡司誠（㈱郡司建設）・富山秀人（㈱富山園建設）・城内浩和（㈱大平工業）・保立明宏（㈱宏洋）・松崎祐二（松崎建設㈱）・櫻井郭実（㈱櫻文工業）・福智勇人（福智建設工業㈱）・成島隆平（成島建設㈱）・仲川将大（㈱仲川建設）・大坂寛暁（大坂建鋼㈱）・菊池健郎（㈱菊池土建）・鈴木茂（鈴木鉄工建設㈱）・野中泰博（常総ブロック㈱）・青木敏紘（㈱青木建設）・小澤淳（小沢道路㈱）・高崎弘道（㈱高崎建設）・吉田長邦（㈱吉田組）

令和3年度 役員名簿

新任	地区	役職	氏名	商号
新	高萩・太田	会長	鈴木達二	鈴縫工業(株)
	県南	副会長(総務担当)	櫻井俊一	櫻井建設工業(株)
新	水戸	副会長(地域貢献活動担当)	内藤裕一郎	(株)内藤工務店
新	県南	副会長(社会コミュニケーション担当)	栗山秀樹	栗山工業(株)
	大宮・大子	総務委員長	長山朋之	長山工業(株)
新	水戸	地域貢献活動委員長	根本昌義	(株)根本工務店
新	水戸	社会コミュニケーション委員長 (社会連携・担い手育成担当)	田口富之	(株)田口工務店
新	県西	社会コミュニケーション委員長 (広報・ソーシャルメディア担当)	小倉健太郎	(株)小倉工務店
新	水戸	地区幹事	秋山正人	(株)秋山工務店
新	高萩太田	地区幹事	須田要介	日立土木(株)
新	大宮・大子	地区幹事	生田目憲明	(株)進栄
新	鹿行	地区幹事	安藤祐章	(株)鹿島企業
	県南	地区幹事	鈴木亮	北都建設工業(株)
新	県西	地区幹事	青木敏紘	(株)青木建設
新	水戸	監事	横田修一	(株)横田建設
新	水戸	監事	若松亜紀子	菅原建設(株)
新	県西	監事	串田一仁	(株)クシタ建設
新	大宮・大子	顧問	大曾根理一郎	(株)大曾根建設
新	大宮・大子	相談役	増子秀典	増子建設(株)
新	県南	相談役	小林圭一	谷原建設(株)

●令和2年度 新規入会者

地区	氏名	商号
鹿行	堀江光	(株)光建
県西	中村亮太	中和建設(株)
県南	磯邊集	(株)アレスコ
鹿行	伊東優考	(株)伊東建設
鹿行	羽生貴之	(株)羽生工務店
竜ヶ崎	田崎翼	(株)田崎技術
大宮・大子	金澤陽治	(有)金沢建設
大宮・大子	益子正太	(有)益子
水戸	雨貝綱太	(株)水戸グリーンサービス
県南	齋藤誠	(株)斎藤建設

●卒業された皆さん

地区	氏名	商号
高萩・太田	生田目勝義	(有)生田目工務店
大宮・大子	柳瀬香織	海老根建設(株)
鹿行	小野口整慶	常陽開発工業(株)
県南	大和田隆之	(株)大和田建設
県南	高田稔美	(株)高田工務店
県西	川田秀樹	(株)川田建材工業
県西	根本忠志	(株)根本工業
県西	大橋一博	森田建設工業(株)

●令和3年度 新規入会者

地区	氏名	商号
水戸	長谷川優子	平和建設(株)
鹿行	富山秀人	(株)富山園建設
県西	新井雅貴	(株)アロウズ
鹿行	下館雄樹	(株)波崎建設



編集後記

2020年4月に発令された「緊急事態宣言」が解除され安心したのも束の間、2021年1月に2度目の「緊急事態宣言」、4月には3度目の「緊急事態宣言」と、度重なる発令に行事やイベント等は軒並み延期や中止に。色々な行動制限もかかり、例年よりも1年が早く過ぎ去ってしまったような気がします。生活スタイルや仕事のやり方も、1年前とは大きく変わりつつあります。今までの当たり前が、当たり前じゃなくなる日もすぐそこまできているのかも知れません。

建設業界でもこれから「ICT」、「外国人労働者の雇用」、「女性技術者の増加」、「書類の電子化」等、様々な変化が待っています。今までの建設業の印象も変わり、次世代を担う若者達から魅力的にみられる職種に変化するのも近いはず。私達の仕事は地球開発なのだから。

(M. Y)